

第2回二宮町行政改革検討委員会 会議要旨

開催日時	平成31年2月15日（金）15時00分～17時00分	
開催場所	二宮町役場2階 第1会議室	
出席者	委員	出席6名 湯川恵子 委員、阿部正昭 委員、柳川幸司 委員、 浅沼寿成 委員、脇治 委員、平田光枝 委員
	その他	傍聴 2名
	町職員	政策担当参事
	事務局	政策総務部企画政策課3名
会議次第	1. 開 会 2. あいさつ 3. 議 事 (1) 第5次二宮町行政改革大綱策定に係る意見書（案）について (2) その他 4. 閉 会	
配布資料	資料1 第5次二宮町行政改革大綱策定に係る意見書（案） 参考資料1 二宮町行政改革検討委員会 第1回目意見まとめ	

■会議概要

1. 開会

2. あいさつ

3. 議 題 【質疑・意見など】（※◎は会長、○は委員、●は事務局の発言）

（1）第5次二宮町行政改革大綱策定に係る意見書（案）について

- 組織体制の強化の内、ICTの活用はペーパーレスではなく、業務の効率化により人員の余力を生み出すためであるため、その表記を入れ込む必要がある。また、ICTの活用によるターゲットを明確にしていくべきである。
- ◎ 意見書の1ページ目の内容表記だと思うが、現在の書き方だとICTの活用目的がペーパーレスに見えてしまうため、削除したらどうか。また、AIについても、前回会議の議事録に出ておらず、今後4年間の取り組みの中でも時期尚早かと思われるので削除したらどうか。
- 業務の効率化の基礎である余剰、過剰、重複を省くため、職員の意識改革を、外部講師を入れるなどして進める必要がある。また、職員の意識を把握するため、職員アンケートの導入などについても検討したらどうか。
- ICTの活用は、業務の効率化の手段としてあるため、項目の順序についても再考が必要である。
- ◎ 新庁舎の関係は、行革を進めていくうえできっかけとして意識をしているのか。
- 情報共有の意識と仕組みは、新庁舎への移転までに形成する必要がある。
- 新庁舎の必要性は理解できるものの、特に財政面において心配している声が多いため、あまり前面に出さない方が良いのではないかと。
- ご意見を踏まえ、「ペーパーレス」から「新庁舎への移転を視野に入れ」までカットし、「～向上とともに、職員の適正配置や業務管理のツールとして有効なICTを、意識を持って積極的に活用し」としてはどうか。
- ◎ 新庁舎は組織体制の強化に直接関係しておらず、また新庁舎という文言を入れることで、そこでゴールともみられるため、削除する。また、何のためのICTかについてきちんと言及した文章とする。
- 組織体制の強化の説明で、広域連携について書かれているが、この広域連携は町民サービスを維持した中で、業務の集約や削減を進めていく意識が根底になければいけない。そのような趣旨を明確に書く必要がある。
- 現状の意見書には広域化についての記述がないため、例えば2項目目に記述を入れることも考えられる。
- 組織体制の強化の項目で、ICTの活用から入っているが、業務の効率化から入り、その手段としてICTに言及する方が良いのではないかと。
- ◎ では、1項目と2項目を逆にし、事業の見直しについて意見した後、2項

目目でその手段としてのICTについて、言及するのでどうか。

- 異議なし
- 持続可能な財政の確立の分野において、中長期の財政見通しだけでなく、町債残高の計画的な削減を入れるべきではないか。町民は新庁舎の建設に伴い、今後の財政を心配しているが、近隣と比較し、危機レベルにあるのかどうか分からない。
- 町債残高は必ずしも削減するべきものではなく、安全な範囲を維持しつつ、その内容を町民にしっかり周知していくことが大切というものではないか。
- ◎ 新庁舎の建設に伴う財政的な不安については、町民が心配していることは理解したが、新庁舎の建設に係る費用が確定していない状態では、財源などについてこの委員会で意見できないが、不安を払しょくする取り組みについては意見できると思う。具体的には、持続可能な財政の確立の分野で、3項目目を設置し、「施設の効率的な運営のため、町民と丁寧な対話をしていくことを求めます。」という文言を入れてはいかがか。
- 新庁舎の建設に伴い町民サービスが低下したり、町民の小さな要望が叶わなくなったりするのではないかとこのことを心配している。
- では、会長からご提案いただいた文章に「町民のニーズに即した情報共有」というニュアンスを入れ、「町民との丁寧な対話とともに、町民のニーズにあった適切な情報共有を求めます。」としてはいかがか。
- 町民にとって町債残高の危機レベルがわからないため、分かりやすく工夫して説明をしていく必要がある。
- ◎ 先ほど事務局から提案のあった表記であれば、ご意見いただいた部分はカバーできると考える。何をもってわかりやすい説明かは、ここで議論するところではないため、方向性が示せば良いのではないか。
- 財源の確保の分野における収納の強化は、収納率が高いのであれば項目として設定しなくて良いのではないか。それよりふるさと納税で取られてしまっている税金の対策の方が、必要性が高いのではないか。
- 収納率は98.3%である。ふるさと納税対策は、現状の国のシステム上では、返礼率を上げて収入を確保する以外にないが、町は国の方針に示されている3割以上に上げる予定はなく、特産品やブランド品を品目にあげることで、引き続き二宮らしさを売っていきたいと考えている。
- 税はその性質上、公平性の観点からも100%を目指していくべきである。また、ふるさと納税は国のシステムなので、収入確保としてのふるさと納税という書き方は果たしていいのかと考える。
- ◎ 持続可能な財政の確立の分野の1項目目にある「神奈川県等と連携」は前回の会議のやり取りから意味のあるものなので、そのまま残すべきだと思う。また、ふるさと納税の記述は、ふるさと納税からの収入の確保というよりは、二宮らしい返礼品により二宮のファンを増やし、転入などによ

る税の確保も含め、ちょうど良い表現ではないかと考える。

- 表現について異議はないが、商業において売り上げが減れば、経費を削減するしかないため、今後人口減少が進む町も歳入の確保にしっかり取り組まないと、健全な財政を維持することが難しくなると思う。
- 多様な主体との協働の分野において、大綱案に示してある3つの個別項目は必要不可欠だと考える。特に高齢化に伴う地域コミュニティの担い手の確保や地区の在り方の検討のほか、参画のための情報共有は力を入れるべき取り組みだと思う。
- ◎ 多様な主体との協働の分野における3つの個別項目のうち、町民参画の仕組みづくりの項目だけ意見書の項目から抜けている状態である。この項目は大切な分野でもあるため、意見書の多様な主体との協働の分野にもう1項目追加し、この取り組みの必要性を書いてはどうか。
- 地域や町民との協働を進めるにあたって、町は方向性を示す必要がある。また、地域や町民とのパイプ役になる部署は、地域に向いて調整する人員を配置しないとその業務はこなせないため、組織づくりをきちんとする必要がある。
- 地区の在り方の検討には、地区ときちんと話し合っ決めていく必要があるため、意見書に「丁寧な話し合いのうえ、進めていくこと」などという文言を載せることはできると考える。また、地域や町民とのパイプ役には、人ではなく地域政策課の地域支援班という組織で対応している。
- ◎ やり取りを聞いていると対話が重要だと感じる。仕組みづくり、地区や町民との協働、丁寧な対話といったキーワードを入れながら、項目を起こすべきだと考える。
- 高齢化に伴う担い手の確保の点において、次期総合計画にも取り組みとして挙げている「多世代が地域づくりに参画する支援」などを入れてはどうか。
- ◎ 入れるべきだと思う。もう一つ、町内にある二宮高校も重要なプレーヤーであるため、「企業や大学等」を「産学」としてはどうか。
- 進行管理にあたっては、各年の目標設定はできる限り数値化し、分かりやすいものとするよう要望する。
- 委員のご意見については、前段の部分で「定量的な指標設定をしたうえで、進捗管理をすること」などのように記載してはどうか。
- ◎ 確かに数値化することで、分かりやすくはなるが、無理に数値化することで、引用する数値が成果指標に適さなかったり、逆に誤解を与えたりする可能性もあるため、すべて数値化すべきとは言い切らず、「町民にわかりやすく説明するのに有効であれば」というような表現にした方が良いのではないかと。
- 数値が絶対ではないが、事業を実施するうえで、ターゲットを定めたいえでの目標設定は必要である。実施の結果、目標を達成しなかった際は、

その理由を考察し、改善させる意味でも必要であるとする。

- 意見を踏まえ、意見書の前段で、「各取り組みにおいては、できる限り定量的な指標を設定し、町民にわかりやすくするとともに、各年の評価の際に、必要に応じて取り組みや指標設定を見直すこと。」というような文章でいかがか。
- 異議なし

(3) その他

- ・ 議事録について。
- ・ 修正した意見書を2月22日(金)ごろに各委員にお送りし、ご意見を踏まえ改めて修正する。最終的な調整を会長としたうえ、後日会長から町長に意見書を提出する。

4. 閉 会